

平成29年11月 東京地区百貨店売上高概況

平成29年12月21日

I. 概況

1. 売上高総額	1,495億円余
2. 前年同月比	3.8% (2か月ぶりプラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭4.4%(90.6%) : 非店頭-1.7%(9.4%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成29年10月対比±0店)
5. 総店舗面積	844,831㎡ (前年同月比:-4.3%)
6. 総従業員数	18,229人 (前年同月比:-3.6%)
7. 3か月移動平均値	4-6月 -0.2%、5-7月 -0.3%、6-8月 1.0%、 7-9月 2.1%、8-10月 2.5%、9-11月 2.7%

[参考] 平成28年11月の売上高増減率は-1.4%

【特徴】

- (1) 東京地区の入店客数は、都内ほぼ全店で前年をクリアし3.9%のプラス。比較的好天に恵まれたことに加え、各社が積極展開した集客・販促策が奏功した。また、売上高も全国水準を1.6ポイント上回る3.8%増とプラスに転じた。富裕層・インバウンドによる高額商材の活況に併せて、特に衣料品では、コートやジャケット、セーター等防寒着を中心にボリュームゾーンも順調に推移。2か月ぶりに1.2%増とプラス転換した。
- (2) 細分類では、婦人服・洋品がストールやファー付きの防寒アイテムの需要が高まり0.3%増と3か月ぶりにプラス。紳士服・洋品はアウターが好調で4か月連続プラスの4.6%増。冬のコレクション等プロモーションや催事への関心が集まり高単価商品も動く。
- (3) 雑貨は引き続き株高とインバウンドの影響から12か月連続プラスの14.5%増。細分類では、化粧品(25.3%増)がクリスマスコフレなど季節限定セット商品の人気もあって、国内外ともに好調推移し32か月連続プラス。高額商材(美術・宝飾・貴金属:10.8%増)も高級腕時計、美術・工芸品が動き7か月連続増となった。
- (4) 食料品は0.1%減とほぼ前年並みとなった。おせちやクリスマスケーキの予約が好調で、惣菜(1.0%増)は3か月ぶり、菓子(3.5%増)は5か月ぶりと共にプラス転換した。特にネット受注が高い伸びを示している。生鮮食品はいまだ不漁不作による価格高騰の影響を受けるも1.9%減まで回復している。
- (5) 12月中間段階の商況は、1.4%増(12/18)で推移している。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.0日 (前年同月比 ±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数19店舗)
①増加した: 11店、②変化なし: 6店、③減少した: 2店
- (3) 11月歳時記(歳暮、七五三)の売上 (同上/有効回答数9店舗)
①増加した: 3店、②変化なし: 5店、③減少した: 1店

東京地区百貨店 売上高速報 2017年11月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	149,529,327	100.0	3.8
紳士服・洋品	13,329,577	8.9	4.6
婦人服・洋品	25,998,273	17.4	0.3
子供服・洋品	2,352,528	1.6	-1.2
その他衣料品	2,536,506	1.7	-4.4
衣 料 品	44,216,884	29.6	1.2
身のまわり品	19,001,236	12.7	3.4
化粧品	14,552,595	9.7	25.3
美術・宝飾・貴金属	9,201,133	6.2	10.8
その他雑貨	5,568,848	3.7	-2.0
雑 貨	29,322,576	19.6	14.5
家 具	1,742,386	1.2	9.5
家 電	2,133,639	1.4	16.9
その他家庭用品	3,684,200	2.5	-12.6
家 庭 用 品	7,560,225	5.1	-0.9
生 鮮 食 品	6,265,584	4.2	-1.9
菓 子	10,535,408	7.0	3.5
惣 菜	8,109,348	5.4	1.0
その他食料品	14,978,244	10.0	-2.4
食 料 品	39,888,584	26.7	-0.1
食 堂 喫 茶	2,953,804	2.0	-1.1
サ ー ビ ス	2,230,087	1.5	0.9
そ の 他	4,355,931	2.9	18.6

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。
本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	4,434,387 千円	3.5
従 業 員 数	18,229 人	-3.6
店 舗 面 積	844,831 m ²	-4.3

営 業 日 数	30.0 日	前年	30.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が12か月連続、衣料品と身のまわり品が2か月ぶりのプラスとなった。また、家庭用品が15か月連続、食料品が5か月連続のマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が32か月連続、美術・宝飾・貴金属が7か月連続、紳士服・洋品が4か月連続、家電が3か月連続、家具が2か月ぶり、婦人服・洋品、惣菜が3か月ぶり、菓子が5か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	3.8	—	2か月ぶりプラス
紳士服・洋品	4.6	0.4	4か月連続プラス
婦人服・洋品	0.3	0.1	3か月ぶりプラス
子供服・洋品	-1.2	0.0	4か月ぶりマイナス
その他衣料品	-4.4	-0.1	2か月連続マイナス
衣料品	1.2	0.4	2か月ぶりプラス
身のまわり品	3.4	0.4	2か月ぶりプラス
化粧品	25.3	2.0	32か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	10.8	0.6	7か月連続プラス*
その他雑貨	-2.0	-0.1	2か月連続マイナス*
雑貨	14.5	2.6	12か月連続プラス
家具	9.5	0.1	2か月ぶりプラス
家電	16.9	0.2	3か月連続プラス
その他家庭用品	-12.6	-0.4	8か月連続マイナス
家庭用品	-0.9	0.0	15か月連続マイナス
生鮮食品	-1.9	-0.1	21か月連続マイナス*
菓子	3.5	0.2	5か月ぶりプラス*
惣菜	1.0	0.1	3か月ぶりプラス*
その他食料品	-2.4	-0.3	4か月ぶりマイナス*
食料品	-0.1	0.0	5か月連続マイナス
食堂喫茶	-1.1	0.0	3か月連続マイナス
サービス	0.9	0.0	2か月ぶりプラス
その他	18.6	0.5	4か月連続プラス
商品券	3.5	0.1	2か月連続プラス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・橘・長柴 まで
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>